

2025年8月6日

関係各位

株式会社パテント・リザルト

【大学・研究機関】他社牽制力ランキング 2024

トップ3は産総研、東大、東北大

弊社はこのほど「大学・研究機関」の特許を対象に、2024年の特許審査過程において他社特許への拒絶理由として引用された特許件数を機関別に集計した「大学・研究機関 他社牽制力ランキング 2024」をまとめました。

この集計により、直近の技術開発において競合他社が権利化する上で、阻害要因となる先行技術を多数保有している先進的な大学・研究機関が明らかになります。

集計の結果、2024年に最も引用された機関は、1位 **産業技術総合研究所**、2位 **東京大学**、3位 **東北大学**となりました。

【大学・研究機関 他社牽制力ランキング 2024 上位10社】

順位	大学・研究機関名	引用された特許数
1位	産業技術総合研究所	718
2位	東京大学	327
3位	東北大学	263
4位	科学技術振興機構	253
5位	大阪大学	245
6位	UNIVERSITY OF CALIFORNIA (米)	238
7位	京都大学	237
8位	東京科学大学	225
9位	東海国立大学機構	185
10位	CENTRE NATIONAL DE LA RECHERCHE SCIENTIFIQUE (仏)	165

【ランキングの集計対象について】

日本特許庁に特許出願され、2024年12月までに公開された全特許のうち、2024年1月～12月末の期間に拒絶理由（拒絶理由通知または拒絶査定）として引用された特許を対象に、抽出・集計を行っています。

また本ランキングでは、権利移転を反映した集計を行っています。2025年5月時点で権利を保有している大学・研究機関の名義でランキングしているため、出願時と大学・研究機関名が異なる可能性があります。

なお業種につきましては、総務省の日本標準産業分類等を参考に分類しています。

1位 産業技術総合研究所の最も引用された特許は、三井化学と共同保有の「高いEUV透過率と耐熱性を有するEUVリソグラフィ用ペリクル膜」に関する技術で、信越化学工業などの計4件（のべ5回）の審査過程で引用されています。このほかには、三菱ガス化学と共同保有の「高圧縮性を必要とせずに大量製造が可能な全固体電池の製造方法」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、トヨタ自動車など計4件（のべ4回）の拒絶理由として引用されています。

2024年に、産業技術総合研究所の特許によって影響を受けた件数が最も多い企業はトヨタ自動車（13件）、次いでNTT（12件）となっています。

2位 東京大学の最も引用された特許は、「畳み込みニューラルネットワークを用いた情報処理」に関する技術で、エンゼルグループの計7件の審査過程で引用されています。このほか「均一で高機能の肝細胞の効率的な調製方法」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、UNIVERSITY HEALTH NETWORK（加）など計4件の拒絶理由として引用されています。

2024年に、東京大学の特許によって影響を受けた件数が最も多い機関は大阪大学（8件）、次いでエンゼルグループ（7件）です。

3位 東北大学の最も引用された特許は、JFEスチールと共同保有の「高生産性で低コストの還元鉄を製造する方法」に関する技術で、住友金属鉱山の計6件の審査過程において拒絶理由として引用されています。

2024年に、東北大学の特許により影響を受けた件数が最も多い企業は住友金属鉱山（9件）、次いでTDK（7件）となっています。

4位 科学技術振興機構は「ラマン分光法を用いた生体分子の解析方法」、**5位 大阪大学**は「ヒト幹細胞の安定培養を可能にする細胞培養器具」が、最も引用された特許として挙げられます。

* * *

また弊社では、ランキングデータを下記の通り販売しています。

【大学・研究機関 他社牽制カランキン 2024 データ】

▶納品形態：以下のデータを収録したエクセルファイルをメールで御納品※

（※データー式を収録したCD-Rでの御納品をご希望の場合はご相談ください）

・ランキング トップ50機関：大学・研究機関の被引用件数上位50機関のランキング

・被引用件数 トップ100件：大学・研究機関の被引用件数上位100特許、及び引用先の特許との対応

▶価格：50,000円（税抜）

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社パテント・リザルト 事業本部 営業グループ

URL : <https://www.patentresult.co.jp/>

e-mail : info@patentresult.co.jp